

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2009年6月)

発表日 2009年7月23日(木)

～20ヶ月ぶりの前年比プラス～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 小杉 晃子
TEL : 03-5221-4548

(単位:%)

	貿易収支(億円)		輸出金額		輸出数量			輸入数量					
	原数値	季調値	前年比	前年比	前年比			前年比					
					アメリカ	EU	アジア	アメリカ	EU	アジア			
08	1月	▲1063	11574	7.7	9.5	7.7	▲3.1	3.4	11.9	0.7	▲7.1	▲1.7	1.7
	2月	9358	6937	8.7	10.7	14.3	1.8	8.6	21.7	▲1.0	▲0.5	0.6	▲2.9
	3月	10962	6963	2.2	11.4	5.9	▲3.4	5.5	7.9	4.3	▲8.4	2.9	12.5
	4月	4587	6590	3.9	12.2	7.3	▲0.5	3.8	12.2	5.8	▲6.2	4.2	5.6
	5月	3411	4691	3.6	4.8	6.6	▲0.4	0.1	10.5	▲3.4	▲11.0	▲7.3	▲4.8
	6月	1041	▲464	▲1.8	16.7	▲1.5	▲8.6	▲8.9	1.1	4.4	11.9	1.9	2.0
	7月	819	▲803	7.9	18.2	8.9	▲5.3	3.1	12.1	2.2	▲1.9	▲11.2	0.9
	8月	▲3142	▲3661	0.2	17.1	▲1.0	▲18.9	1.7	2.6	▲4.5	1.4	▲8.1	▲5.2
	9月	910	▲1109	1.5	28.8	▲0.6	▲12.2	▲8.1	1.2	6.1	5.0	4.0	9.9
	10月	▲752	▲2726	▲7.9	7.4	▲6.9	▲17.4	▲10.4	▲2.8	▲2.4	▲18.3	▲6.0	1.8
	11月	▲2275	▲3551	▲26.8	▲14.4	▲22.7	▲28.5	▲16.8	▲22.4	▲10.7	▲12.2	▲14.8	▲8.6
	12月	▲3222	▲1520	▲35.0	▲21.5	▲29.9	▲31.3	▲29.7	▲30.7	▲7.1	▲16.1	▲10.6	▲5.6
09	1月	▲9560	▲3762	▲45.7	▲31.9	▲40.9	▲48.6	▲42.0	▲39.0	▲11.7	▲22.8	▲15.3	▲10.7
	2月	827	▲42	▲49.4	▲43.0	▲45.4	▲55.5	▲45.6	▲40.6	▲25.3	▲24.3	▲27.4	▲30.8
	3月	91	17	▲45.5	▲36.6	▲41.1	▲49.5	▲49.6	▲33.8	▲20.4	▲22.8	▲27.5	▲20.7
	4月	664	1609	▲39.1	▲35.8	▲35.9	▲49.4	▲42.8	▲28.8	▲20.3	▲27.2	▲29.7	▲18.9
	5月	2982	3095	▲40.9	▲42.4	▲36.2	▲46.8	▲40.2	▲27.6	▲24.0	▲34.9	▲28.7	▲23.2
	6月	5080	4382	▲35.7	▲41.9	▲27.6	▲37.4	▲36.0	▲19.0	▲18.1	▲36.0	▲23.5	▲13.7

(出所)財務省「貿易統計」

○貿易収支は5ヶ月連続で黒字、4-6月期の輸出金額は前期比プラスに

6月の貿易収支は+5,080億円(原数値)と、5ヶ月連続の黒字となり、前年比では20ヶ月ぶりにプラスに転じた。輸出は、金額(前年比▲35.7%←5月同▲40.9%)、数量(前年比▲27.6%←5月同▲36.0%)ともに前月からマイナス幅は縮小した。輸出金額を季調値でみても、4-6月期の前期比は+3.4%となっており、1-3月期の前期比▲22.8%から一転してプラスとなった。海外における在庫調整の進展などを受けて、輸出は回復傾向が続いている。他方、輸入金額(前年比▲41.9%←5月同▲42.4%)も、マイナス幅が縮小したが、輸出のマイナス縮小幅が輸入のそれを上回った結果、貿易収支の黒字幅は拡大した。

○アジア向け、欧米向け輸出ともに回復傾向

輸出の動向を地域別(金額ベース)にみると、ロシア向け(前年比▲83.5%←5月同▲88.3%)、中東向け(同▲50.2%←5月同▲47.4%)は、依然として悪化が続いているものの、米国向け(同▲37.6%←5月同▲45.4%)、EU向け(同▲41.4%←5月同▲45.4%)は、前月に続き減少ペースは鈍化している。世界的な在庫調整の進展などにより、欧米向け輸出はここにきて回復しつつある。また、アジア向け(前年比▲30.1%←5月同▲35.5%)も、前月に比べ減少率は縮小しており、改善傾向が続いている。特に中国向け(同▲23.7%←5月同▲29.7%)は、これまでの景気対策の効果などにより、比較的早いペースで改善している。

品目別でも、自動車の米国向け(前年比▲36.5%←5月同▲54.8%)、EU向け(同▲41.4%←5月同▲53.1%)は前月に続き減少ペースが緩和しており、自動車輸出も持ち直しに転じつつある。さらに、半導体等電子部品も、在庫調整の進展による国内電子部品の需要回復を受けて、アジア向け(前年比▲17.3%←5月同▲30.9%)を中心に、改善している。

○輸入は原粗油、石炭などが減少

輸入は金額(前年比▲41.9%←5月同▲42.4%)、数量(前年比▲18.1%←5月同▲24.1%)ともに、前月に比べ減少率は若干縮小した。だが、品目別にみると、原粗油(前年比▲64.0%←5月同▲63.1%)や石炭(同▲58.4%←5月同▲31.6%)などの鉱物性燃料は、昨年の価格高騰の反動の影響により、減少率は拡大している。そのほか、地域別にみれば、EU向け自動車(前年比▲44.1%←5月同▲48.0%)や自動車の部品類(同▲46.6%←5月同▲50.5%)などの機械類も、内需の低迷に伴って、減少傾向が続いている。

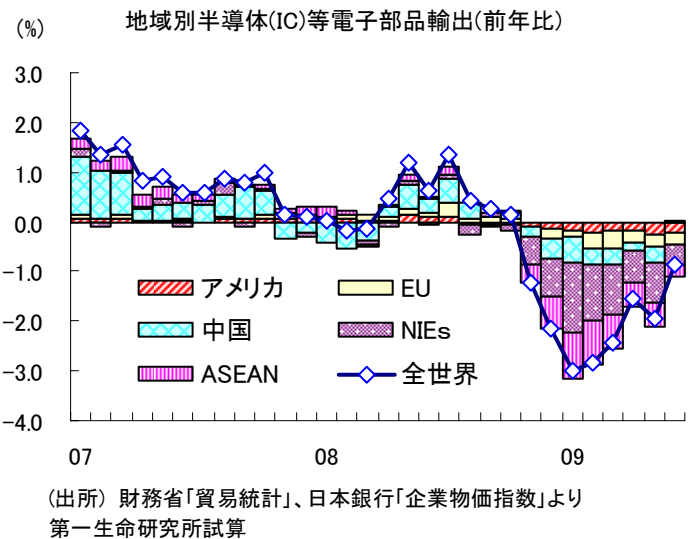
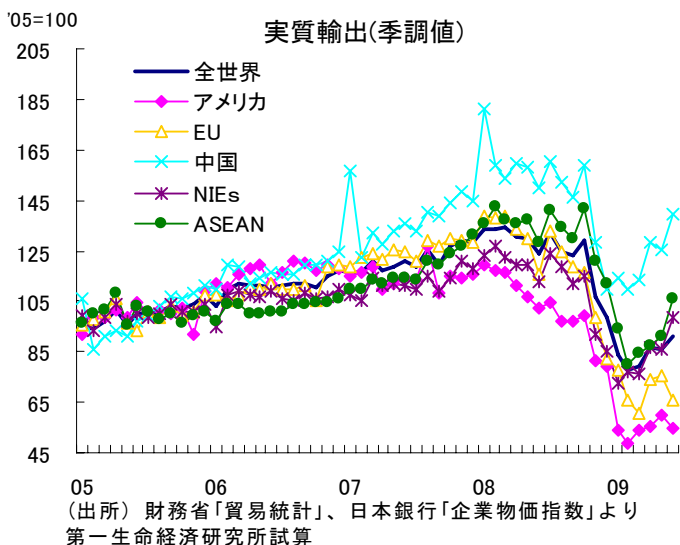
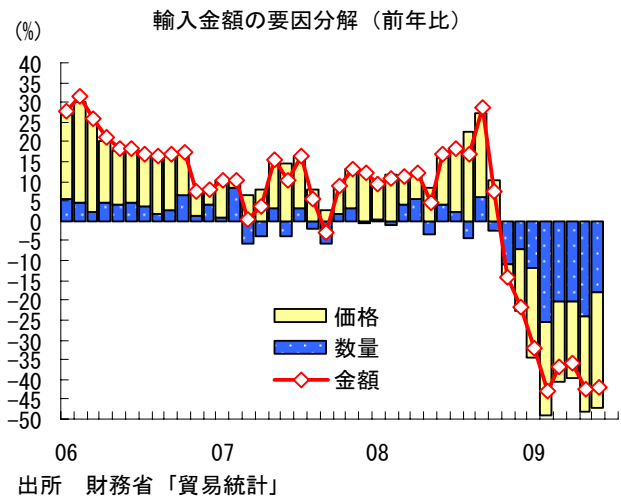
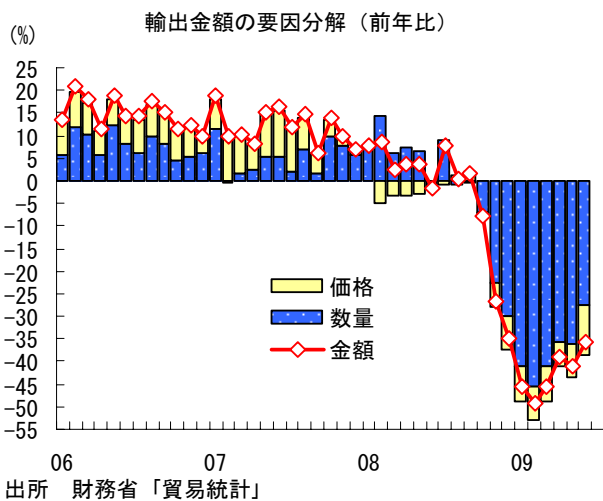
○先行き輸出の緩やかな改善により、貿易収支も緩やかに増加していく見込み

このように、昨年後半以降、輸出は大幅な減少が続いていたが、世界的な在庫調整の進展、中国を中心とした景気対策の効果などにより改善している。地域別でも、アジア向けの改善に続き、欧米向けについても自動車輸出を中心に、持ち直しつつある。

先行きについても、輸出に先行する傾向がある米ISM製造業景気指数(新規受注)やOECD景気先行指数などの指標が改善していることから考えて、輸出は引き続き増加傾向で推移する可能性が高い。

他方、輸入も、原油価格の下落が継続すると思われるものの、輸出の回復により国内景気が次第に持ち直しに向かうもとの、緩やかな増加に転じていくことが予想される。

輸出の回復に伴って、貿易黒字額は緩やかに増加していくだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。